

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100061		
法人名	医療法人 城南会		
事業所名	グループホームがじまる荘		
所在地	沖縄県那覇市松川三丁目23番39-1号		
自己評価作成日	平成21年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigoioho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100061&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成21年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームがじまる荘は、ほのぼのと家族的な雰囲気の中で、利用者の生活を支え、利用者の自立の気持ちを大切にし、生きがいのある明るい生活を送ってもらうことを目的とし、認知症の進行を緩やかにし、心身機能の維持・改善を図るとともに、身体面・精神面の変化が見られた場合、隣接する同法人の医師、看護師に相談しながら、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は精神科を主体とする医療法人で、理事長は認知症の専門として利用者の信頼も厚い。医療施設と当該グループホームは隣接しており、日頃の介護においても医療ケアの利用による利用者の精神的安定等への支援が可能であり安心した施設運営が期待できる。利用者が地域で暮らし続けられるよう、事業所が地域の一員として通り会活動への参加を始めており、さらに、地域住民や家族とともに夕涼み会を開催するなど、地域とのつながりの基盤づくりに取り組んでいる姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや申し送りの中で、理念に基づいて、利用者の課題や問題点などの対応、ケアの方法などについて話し合いを行い、実践している。	事業所独自の理念があり、地域密着型として事業所と地域の関係性を表示した内容となっている。理念の共有については、事業所内に掲示しいつでも確認できるようになっている。毎月1回はミーティングを実施し理念に基づいた介護の方法等について話合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動(清掃活動など)に参加し、交流することからは始めている。	現在は近隣の「ダム通り会」に所属し月1回の清掃活動や2か年に1回の夏祭りにも参加している。さらに、今年は、事業所において家族や地域の方の参加も得て夕涼み会を実施し、着実に地域活動をを広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の半数が退職により入れ替わり、認知症介護未経験のため、認知症の人の理解や支援について学んでいる状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を通して、利用者や施設の状況報告を行い、それぞれの立場からのアドバイスを受け、サービスの向上に活かしている。	会議の内容は主に事業所からの報告や行事の持ち方等について、委員からアドバイスを受ける場になっている。委員は民生委員、自治会の方、利用者、行政職員となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と利用者のための法的手続きなどを確認したり、サービス向上のための連携を図っている。	運営推進会議の委員をしている担当職員を通して行事の持ち方、法人内管理者との情報交換会の開催等のアドバイスをもらったりと関係性は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りの中で、身体拘束についての話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は利用者全員が離床し見守り支援されているが、夜間帯に事故の発生が多いため、安全目的にセンサー、タオルケットに鈴の添付、ペットの4点柵が使用されている。なお、同意書の徴収には至っていない。	今後は一人ひとりの事故発生等の要因分析検討を行い、やむを得ず身体拘束が必要な場合は、家族へ説明を行ない文書による同意を得ることが望まれる。さらにセンサー等に頼らない介護の工夫に取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを備え、職員に認識、周知を行っており、機会があるごとに話をしている。職員間でも注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の半数が1年未満ということで、権利擁護事業や成年後見人制度についての勉強会を行なった。マニュアルを備え付けいつでも情報を提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については、時間をかけて説明を行なっている。家族や契約者の疑問、不安などをなくし、納得してもらってから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「みなさんの声」の意見箱を設置し、家族等から意見や不満、苦情が言いやすいようにしている。そのほかにもご家族への声かけも行っている。改善が必要な事柄については職員間で話し合い改善できるように努めている。	意見要望等が言えない利用者については、表情や行動等を観察することで反映している。家族については来訪時に意見を聞く機会を設け、その解決策としてご家族のケアカンファレンス参加で運営に反映した事例等がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員からの意見や提案が聞けるようにミーティングを随時行い、利用者のケア、業務改善に反映させるように努めている。	ミーティングを随時(月2~3回)行い全職員の意見や提案を聞くようにしている。例えば、業務分担についての提案があり改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングやその都度話し合いの機会を持ち改善などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講に関する情報提供や受講する機会の確保、OJT(職業訓練)も行いながら介護の知識・技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、業界や他事業所との情報を得るように努めている。定例会議、勉強会、見学会にも参加するように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身から話を聞く機会を持ち、本人の言動などから本人の心理状態や要望なども理解することにも努め、同時に受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等と事業所の役割、家族の役割、連携・協力体制のあり方などについて話し合うなかで、できるだけ家族の不安を取り除き、要望に応え、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内外のサービス事業所との情報交換、連携を心がけ、相談を受けたときには、本人、家族の話をよく聴いた上で、認知デイサービス、小規模多機能、訪問介護などの他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽の感情が大切なものであると認識しており、利用者を人生の先輩として尊敬し、生活や子育ての知恵、慣習などを学ばせてもらいながら、支えていくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の精神状態や健康状態の変化などに家族と共に一喜一憂し、家族と対等な立場で、連携・協力して本人を支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の写真、自宅で使用していた小物、身の回り品、備品などの持ち込みなどを家族にお願いして、事業所での精神的安定を支援するように努めている。	クリスチャンである利用者に月に1回馴染みの牧師が訪ねてきたり、国外に住んでいる娘や旧友への手紙を書くなどの支援をしている。その手紙の返事を楽しみ読んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでの座席配置なども調整して、利用者同士が孤立したり、衝突したりなどないように気配りをしている。状況によっては職員が仲介してなごやかな雰囲気を作り出すように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが利用が終了しても、築き上げた関係を継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の職業歴や生活歴をできるだけ情報収集し、日常の係わり合いを通して本人の現在の希望や意向を把握するようにしており、可能な限り本人の希望や意向にそうように努めている。	日々の関わりの中で、言葉や表情などから把握し本人の意向に沿うように努めている。把握困難な場合は、家族から情報をえている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や支援者から積極的に情報を得るようにしており、日々のかかわりの中からも本人のことを理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックや生活記録、申し送り、職員同士の情報交換から利用者の現状・変化を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合いをもち、必要な場合は他のサービス事業者の関係者からも情報を得て、介護計画を作成している。職員で話し合い、意見交換も行い、対策、留意点を記載している。	本人や家族の希望や意向を反映した課題解決のための目標を設定した介護計画は作成されている。なお、1年に1回の定期的な見直しもされているが、利用者の現状に即した随時見直しはされていない。	介護計画に基づいた実施記録の整備および利用者の現状に即した見直し、例えば、身体機能低下により転倒など事故の多い利用者については、事故再発防止の目標を追加するなど、随時に介護計画の見直しが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や変化などを個別に記録することで、情報を共有し、日々の支援や介護に役立てて、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、要望に応じて、可能な限り柔軟に対応、支援するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々、看護師に心身状態を報告し、必要時にかかりつけ医を受診できるよう支援している。かかりつけ医での定期受診の際などに必要に応じて健康チェックのデータなども準備して診断の参考にしてもらっている。	入所以前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。定期的な通院や他科(眼科や歯科)受診は家族が対応している。薬の管理は管理者及び介護支援専門員が行い、投薬は介護職員がやっている。医療連携加算が実施され、看護師との連携により健康管理がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面、精神面を観察しながら、変化が感じられた場合は、同法人医師、看護師に相談しながら、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況を家族、病院の相談員と情報交換を行いながら、退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の兆しがみられた場合、次の対応を適切に行えるよう、なるべく早い時期から家族と話し合いを持つようにしている。	法人としては将来看取りをする方針であり、職員間でもその方向で話し合いはされているが具体的な取り扱い方針等はこれから準備する状況である。ご家族との話し合いを始めたところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、家族、救急への連絡体制をとっている。応急手当や初期対応の訓練などは法人としても計画中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、行っていないが、避難経路を作成し、職員に机上訓練を行っている。	事業所は、机上での訓練は行っているが、実際に利用者を避難誘導するなど、災害を想定した実践的な訓練は実施していない。管理者は消防の研修を受け、防火管理者の資格を持っている。また、スプリンクラーの設置も予定している。	利用者の安全を守る観点から、消防署を交えた避難訓練も速めに計画、実施していただきたい。また、日々の暮らしの中で工夫し、職員、利用者で火災などを想定した避難訓練を実施し、危機管理意識を高めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊重し、誇りやプライバシーを守りながら、対応を行っている。記録、写真、その他のプライバシーに関わる個人情報の取り扱いは十分に留意している。	居室へ入るときは、必ず、声かけを行い、着替え時は、カーテンやドアをきちんと閉めている。言葉遣いも気をつけており、“〇〇さん”と呼ぶようにしている。利用者は全員女性で、同性介助を基本にしているが、男性職員が夜勤の場合は、利用者へその旨伝え、プライバシーに配慮しながら介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の気持ちを表現できるよう働きかけたり、事柄に納得して自己決定できるよう支援している。利用者の希望に添えない時にも本人が納得できるまで説明を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ、充実していないが、洗濯物たたみ、コーラス、食器洗い、手作業、軽運動、ホットバックなどいくつかのプログラム準備して、基本的に利用者が望むこと、楽しめることを一人ひとりのペースを大切にしながら、誘導・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の以前の生活に合った身だしなみやおしゃれができるように配慮している。理容、美容について家族と本人の意向により選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を活かしながら、楽しみながら準備や食事、片付けを行ってもらっている。役に立っているという充実感を感じてもらえるよう感謝の言葉をかけることを心がけている。	食事の準備として、野菜の皮むきやテーブルへお椀を運んでもらっている。特に、にんじんの皮むきは好評で、にんじんシリシリのおかずとなっている。毎月1回は外食し、利用者の好物である、そば、てんぷら、とんかつ、ファーストフード(ハンバーガー、ポテト)などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの助言を得て、献立予定表を作成している。食事量をチェックし、利用者一人ひとりの疾病、身体状況をあわせて栄養摂取や水分確保に努め、栄養バランス、塩分量などにも配慮している。定期的に体重を測定し、増減などにも留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを利用者の状態や力に応じて支援している。口腔内や入れ歯の状態を把握し、必要時には家族に連絡し、歯科受診につなげることもある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を活用して、トイレでの排泄や排泄自立にむけ、声かけなどを行いながら自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄の自立支援を心がけ、利用者の排泄の状況をチェック表で確認し把握している。2名は自立し、7名は尿パットを使用している。便秘気味の方への対応は、食事や水分を充分摂ってもらうようゼリー状にするなど、薬を使わない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の状態を把握し、水分や食事、運動などに配慮している。必要に応じて看護師などと相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日置きになっているが、本人の状況や希望、タイミングに合わせて入浴できるように心がけ、支援している。	入浴は週3回で通常は午前中に実施。入浴を拒否される方は、さりげなく時間を見計らい、何度か声かけしながら行っている。それでもスムーズに入浴できない場合は、清拭などで代替している。男性職員が勤務の場合も、利用者の希望に添って女性職員が対応し同性介助に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠をとって頂くためになるべく活動、雑談などを促している。本人からの希望があれば休息を行っている。前日の睡眠状態も考慮しながら休息をとっていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの服薬介助を行い、それに伴う症状の変化に留意している。服薬の変更などは必ず連絡事項として伝え、確実に実行されるように努めている。薬の目的や副作用などの理解をするため、連絡事項に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みなどを家族や日々の生活の中で聞き取り、楽しめるよう工夫している。家族からの差し入れもある。一人ひとりの能力を活かしながら、洗濯物たたみや食事の片付けなど行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分転換を目的としたドライブやご家族と協力しながら外出、外泊の支援を行っている。	日常的な外出支援として、週末に外泊し家族との関わりを持っている利用者もいる。事業所では月1回の外出、週1、2回の母体クリニック駐車場までの散歩が行われているが、上り坂であり、利用者が日常的に散歩するには体力的にも課題がる。	利用者は、外の景色や空気に触れることで、気分転換や五感への刺激の機会となり、より良い支援に繋がると考えられる。例えば、利用者の重度化に伴い無理なく、気軽に出られる場の確保として事業所東側空間を活用し、ベンチ等を置くなど、散歩コース兼憩いの場としての工夫が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭管理ができる方には、本人や家族の希望に応じて所持してもらい、支援を行いつつ使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたり、手紙を書いたり、随時支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や音量に配慮しながら心地よい空間作りを目指している。職員間でも意見交換をし、よりよい環境づくりを目指している。	玄関も明るく落ち着いた雰囲気、食堂の窓や居間の窓から程よい光が入り空気の流れもよい。利用者の日常生活動作を考慮し、食堂や居間の座る場所も配慮されている、テレビも全員が視聴できるよう気配りし、穏やかに過ごされていることが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に椅子や机、ソファ、テレビなどを配置し、利用者が思い思いに過ごせるよう居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用した身の回りのものや家族の写真などを飾り、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。	身の回りの物の持ち込みをされている利用者は5名。安全面に配慮が必要な利用者については持ち込みを遠慮してもらっていることもあるが、敬老会などの写真を居室へ飾るようにしている。何をもち込んでいいかわからない家族へは、昔をなつかしく思い出される家族の写真などの持参をアドバイスしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部には手すりなどを設置し、家具の配置などを工夫し、できる限り安全で自立した生活が送れるよう工夫している		